2023.1.15 第 21 回スリランカを知ろう　　（レポーター　山崎凡）

「都市化が進んでいない珍しい国、スリランカ」

1、都市化とは？

1 キロ平方メートルに 5000 人……世界銀行の定義

国によって定義が異なる

2、経済成長と都市化の関連

経済発展と都市化は関連しているといわれている

3、世界の都市化率と地方(rural area)人口の推移――（p.2 の資料 1 参照）

スリランカの都市化率はこの数 10 年で 10%台後半から 20%が続き、あまり上昇していない。200 以上の国や地域の中で、低いほうから 10 番目位。世界的には先進国、途上国ともに上昇している。日本の特徴は地方人口減少が急速に進んでいることで、特に 2000 年代の減少数と率は世界でも突出している。

4、なぜスリランカの都市化は進んでいないのか

⑴　アジア経済研究所　荒井悦代氏（1995）(http://doi.org/10.20561/00043963)

首都近郊の農村部には人口が集中してきているなど定義上の問題、地方でも無償の教育や医療などの基本的インフラが整っている、都市部に魅力的な雇用が少ない、などを指摘している。スリランカの人口移動は農村間移動が多く、農村の人口扶養能力が高いことが推測できる。

⑵　スリランカの新聞社「The Daily Mirror」（2014）の記事から（http://gentosha-f.com）

①　ゆっくりとした工業化、②社会インフラの充実、③人口増加の鈍り、④高額な住宅費、などがあげられている。そして近年交通が大幅に改善したことが、今後の都市化の進展に影響する可能性を指摘している。

5、都市化が進んでいない状況の問題点

上記の荒井氏が、都市化が進んでいない要因として指摘している魅力的な雇用が少ないという状況は、海外への多数の出稼ぎ労働者の存在と関連していると思われる。外国からスリランカ本国への送金はGDPの8.23%（2017年）を占め高い比率になっている。海外への出稼ぎ労働はスリランカだけでなく、都市化が急速に進んでいる新興国に共通してみられる現象なので、都市化が進すめば海外への出稼ぎ労働が減少するとは限らないが、地方での産業育成も含め雇用環境の改善が求められている。（p.3の資料2参照）

（資料 1）

世界の地方人口（rural area）と都市化率の推移

（2020 年、2030 年は予測値）	1960 年	1980 年	2000 年	2010 年	2020 年	2030 年
世界（**上段 都市化率**） （**下段 地方人口,万人**）	33.6 20,0936	39.3 27,0421	46.7 32,7669	51.7 33,6330	56.2 34,1648	60.4 33,8394
アジア	21.2 13,4029	27.1 19,2557	37.5 23,3064	44.8 23,1741	51.1 22,6199	56.7 21,4432
Japan	63.3 3440	76.2 2807	78.6 2723	90.8 1181	91.8 1039	92.7 887
Sri Lanka	**16.4** **825**	**18.6** **1223**	**18.4** **1533**	**18.2** **1651**	**18.7** **1713**	**21.1** **1694**
（東アジア）	22.9 6,1909	27.5 8,6387	42.0 8,7662	54.4 7,2763	64.8 5,8518	72.7 4,5617
（東南アジア）	18.6 1,7369	25.5 2,6594	37.9 3,2587	44.3 3,3252	50.0 3,3459	55.6 3,2349
（南アジア）	17.4 4,9063	23.4 7,1867	29.0 10,3103	32.5 11,5049	36.6 12,2622	41.7 12,4442
アフリカ	18.6 2,3134	26.8 3,5139	35.0 5,3156	38.9 6,4085	43.5 7,6488	48.4 8,7952
ヨーロッパ	57.4 2,5832	67.6 2,2510	71.1 2,1047	72.9 1,9949	74.9 1,8670	77.5 1,6656
中南米	49.4 1,1176	64.6 1,2912	75.5 1,2873	78.6 1,2979	81.2 1,2504	83.6 1,1800
北アメリカ	69.9 6160	73.9 6632	79.1 6537	80.8 6586	82.6 6439	84.7 6067
オセアニア	66.9 524	70.9 668	68.3 990	68.1 1169	68.2 1346	68.9 1485

国際連合「世界都市人口予測・2018 年改訂版［United Nations (2018). 2018 Revision of World Urbanization Prospects.］」概要（https://esa.un.org/unpd/wup/）2022.4.9 **から作成**

（資料2）

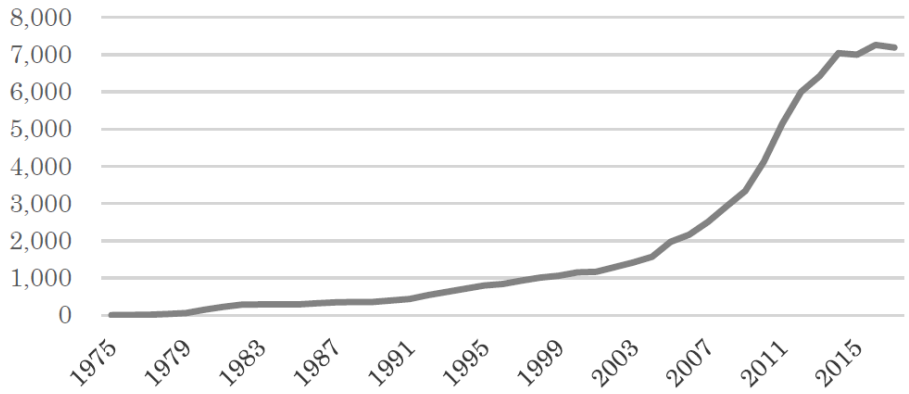


図 11　海外からの送金
（個人）（単位：M.$）

2016 年の国別出国者数

男	カタール	55,018	人（34.3%）
	サウジアラビア	37,109	人（23.1%）
	アラブ首長国連邦	26,932	人（16.8%）
女	サウジアラビア	26,280	人（31.8%）
	クウェート	19,341	人（23.4%）
	アラブ首長国連邦	13,192	人（16.0%）

2017年の送金元の額が多い国

サウジアラビア	2,264.6M.$
アラブ首長国連邦	652.6M.$
英国	525.1M.$
インド	519.5M.$
カタール	508.4M.$
カナダ	488.5M.$

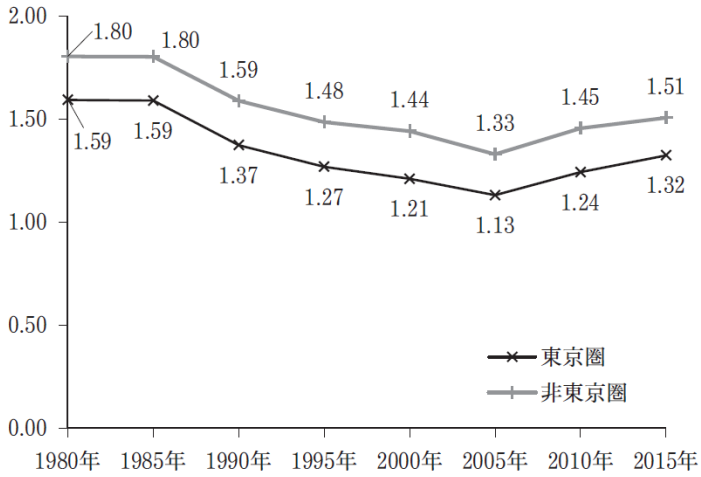
（なお、日本からは40.6M.$です）

（専修大学社会科学研究所月報 No. 675,676 2019.10.20 「データでみるスリランカ経済の現状と課題」P.27-28から作成。https://www.senshu-u.ac.jp/）

6，都市化と地方衰退、少子化との関連

日本だけでなく世界的な傾向が続いている都市への人口集中は、私たちの社会や生活にどのような影響を与えているのだろうか。都市化と工業化は関連していて、経済成長をもたらしている。都市化は、第一次産業から第二次産業へ労働人口が移動して生産性を向上さる。ただ、近年の新興国では第一次産業から第三次産業への移動が顕著で、第二次産業の労働人口が増加していないケースもある。第一次産業の労働人口の減少が、地方地域の衰退につながる傾向は世界的にも共通している。また、都市部の出生率が地方地域に比べ低いことも知られている。都市人口が増加していると気づきにくいが、都市の人口増加は地方からの流入によるもので、都市部は地方と比較して出生率は低くなっている。（p.4 の図 1 参照）日本では小学校総数は減少を続けている。このことが地方地域の衰退とも関連していると考えられる。（p.4 の表 1 参照）

図１　東京圏と非東京圏の合計出生率



資料：国勢調査，人口動態調査
注：人口は国勢調査の国籍不詳を按分した日本人の女性人口，出生数のうち年齢不詳は45-49歳女性の出生数に含めて計算した値

（人口問題研究（J. of Population Problems）76－2（2020.6）pp.265～28　第８回人口移動調査の結果から-その４-p.266 から転載）

表１　日本の小学校数の推移

	総数	本校	分校	東京	東北６県
1960 年度	26,858	22,701	4,157	1,092	3,895
1980 年度	24,945	23,701	1,244	1,440	3,019
2000 年度	24,106	23,573	533	1,441	2,713
2019 年度	19,738	19,583	155	1,331	1,861

文部省ホームページ https://www.mext.go.jp/から作成

（感想）

都市化は、経済発展や生活する上での便利さには貢献しますが、地方社会の衰退や少子化など持続的な社会の発展の面ではマイナス面も表れています。特に、教育環境の整備は地方社会の維持・発展に欠かせない条件だといえます。

ラマーミトゥルの会が続けてきたスリランカの小規模小学校への支援が、子どもたちの学業や地方地域の生活環境の向上・維持にどれだけ貢献できているかはわからないが、少なくともその方向性は正しいと感じています。また、日本社会の現状を考えるとき、地方社会の衰退があまり進んでいないスリランカから学ぶべきところがたくさんあると思います。言葉の壁はありますが、スリランカの人々との交流を深めていければいいですね。